

公益社団法人 日本天文学会 理事会議事録

日 時：2022年12月24日（土）13時00分～15時10分

場 所：日本天文学会事務所（オンライン開催）

出席理事：山本、太田、久保田、町田、鈴木、酒向、鹿野、長瀧、江草、富田、生田、米原、深沢、西、北本、馬場、山村

出席監事：奥村、花岡

欠席理事：古澤

また、次期開催地理事（予定）の金田英宏氏、吉田直紀氏が陪席し、佐藤事務長、黒岩事務長補佐、田口谷事務長補佐が出席した。

I. 確認事項など

I-1. 議事に先立ち、出席者が17名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。

I-2. 前回議事録の確認

資料2に基づき、前回（2022年9月13日）の理事会議事録が報告され、承認された。

II. 議題

II-1. 新規加入者および移籍（準 → 正）の承認（資料3、鈴木）

2022年9月6日～2022年12月20日までに正会員入会申請79名、準会員入会申請10名、賛助会員入会1団体、移籍（準 → 正）1名の申請があり、賛成多数で承認された。

II-2. 公益社団法人日本天文学会2023年度事業計画の承認（資料4、町田）

2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）事業計画書が提示された。日本天文遺産に関する補足説明がなされた。2024年3月の年会開催地（東京大学の予定）が本理事会で承認されることを前提として、次の代議員総会に提案することが賛成多数で承認された。

II-3. 公益社団法人日本天文学会2023年度予算案の承認（資料5、酒向）

2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）予算案が提示された。担当の公認会計士にも確認頂いた上で、公益社団法人として守るべきルールである赤字予算を組んでいることが説明された。また事務所職員が1名増員され予算案にも計上されている。本予算案を次の代議員総会に提案することが賛成多数で承認された。

II-4. インボイス制度への対応について（資料6、酒向）

2023年10月1日より開始された消費税インボイス制度に参加するメリットとデメリットが説明され、日本天文学会が消費税の納税免税事業者から納税事業者に移行し、消費税インボイス制度に加入することが提案された。なお、PASJがOUPでの発行となる以前の日本天文学会は納税事業者であり、従来の体制に戻るということになる。提案は賛成多数で承認された。

II-5. 今後の年会開催地について（資料7、町田）

2024年3月の年会開催地を東京大学、2024年9月の年会開催地を関西学院大学（三田キャンパス）とすることが提案され、賛成多数で承認された。

II-6. 次期委員会の委員長／委員について(資料 8、町田)

次回理事会で承認予定の PASJ 編集委員会と顧問を除く次期(2023-2024 年度)の委員と委員長が提案された。早川基金選考委員の準会員の方 1 名には正会員への移行を促すことを前提として、賛成多数で承認された。

II-7. 内規の改訂について(資料 9、山本)

日本天文学会研究奨励賞、同林忠四郎賞、同早川幸男基金内規の改正が提案された。研究奨励賞は受賞資格を年齢から博士取得後年限へと変更し、かつ、他薦に加えて自薦も認めることを明記すること、林忠四郎賞では他薦のみに限定すること、早川幸男基金は受賞資格を年齢から博士取得後年限へと変更するというのが、おもな変更点である。研究奨励賞については第 2 条に文言の加筆(「産休・育休等により」=>「産休・育休等やむを得ない事情により」)の上、いずれの内規についても改正することが、賛成多数で承認された。また研究奨励賞の内規の改訂にともない、代議員総会に上程する事業計画案の該当箇所を修正する必要が生じた。関連して、研究奨励賞への女性候補者の積極的な推薦を促して欲しいとの意見が出され、代議員総会で報告される予定である。

II-8. 事務所職員の雇用延長について(資料 10、山本)

佐藤事務長の雇用期間について、就業規則第 28 条第 2 項の定めに従い、2024 年 3 月末まで延長することが提案された。また、短期雇用職員の大場氏(経理担当)が来年 1 月に定年となるが、6 月の決算業務等を控えていることもあり、就業規則第 28 条第 3 項の定めに従い、2023 年 4 月～2024 年 3 月末まで雇用期間を延長することが提案された。いずれの提案も賛成多数で承認された。

II-9. 年会実行委員会の委員(2022 年度増員分)について(資料 11、町田)

年会のハイブリッド開催準備のため、大澤 亮 氏(国立天文台・助教)を 2022 年度途中からの新委員としてすることが提案され、賛成多数で承認された。

III. 報告

III-1. 移籍・退会等の報告(資料 3、鈴木)

2022 年 9 月 6 日～2022 年 12 月 20 日までに正会員退会 1 名、準会員退会 1 名があったことが報告された。

III-2. 年会実行委員会からの報告(資料 11、町田(古澤氏代理))

2022 年秋季年会(新潟大学)のアンケート実施結果が報告された。ハイブリッド方式での開催およびその運営方法におおむね高い評価が得られている。発表で利用する共用 PC への不満など問題点も出されているが、今後の年会での改善点に役立てる予定である。

III-3. ネットワーク委員からの報告(資料 12、生田)

TENNET 運用体制の検討状況が報告された。配信に関しては、Google Workspace を利用したメーリングリストを運用する方針を大枠とし、より詳細を検討している状況である。アーカイブの公開部分はクラウドサービスを利用予定である。

III-4. 天文教育委員会からの報告(資料 13、富田)

2023 年春季年会で予定されている天文教育フォーラム「天文学研究/教育におけるダイバー

シティ推進」について説明された。また、近年監修者紹介プログラムへの以来が増えていることと、IAU OAE（教育のための天文学推進室）の天文教育コーディネーター（NAEC）日本チームの活動状況が報告された。加えて、2022年10月、木曾観測所を会場に、IAO（国際天文オリンピックの2団体のうち一方）に、学生主体の団体「日本天文学オリンピック委員会」の世話でオンライン参加し、メダル受賞者も輩出されたことが紹介された。

III-5. 天文月報編集委員からの報告（資料14、江草）

EUREKA の原稿料を引き上げて他の記事種別と同額にすること、記事のウェブ公開方法を Covid-19 以前の方式（発売後1年間は一部記事を購読者のみに限定公開）に2023年度から戻す予定であることが報告された。また、購読者より賛助会員の紹介記事の要望が出されており、対応について検討している。理事からは、天文学会ウェブページにある賛助会員リストの URL を月報に掲載する等の案が出された。今後も検討を継続予定である。

III-6. 今後の年会進捗状況報告（北本、金田、町田（古澤氏代理））

2023年春季年会（立教大学）、および、2023年秋季年会（名古屋大学）の準備状況が報告された。ハイブリッド開催となる春季年会の詳細な運営方式が紹介された。秋季年会の開催方式については、現地のみとするかハイブリッド方式とするか検討中である。また、講演会と記者発表は名古屋市科学館との共催とする予定である。

III-7. ジュニアセッション報告（資料なし、山村）

2023年春季年会時のジュニアセッション準備状況が報告された。近年春季年会が3月初旬～中旬に開催され高校の授業期間と重なる場合があり、開催方法について議論が必要であると認識していることが報告された。

III-8. 事務所の近況報告（佐藤良）：

PASJ、および、年会の業務補佐のため、宮沢氏が新規職員として採用されている。

[資料リスト]

資料1 理事会出欠表

資料2 公益社団法人日本天文学会理事会（2022年9月13日）議事録（案）

資料3 加入者の承認、移籍の承認・報告、退会の報告

資料4 公益社団法人日本天文学会2023年度事業計画書

資料5-1 から 13 公益社団法人日本天文学会2023年度予算案

資料6 日本天文学会の消費税インボイス制度への対応について

資料7 年会（2024年3月、2024年9月）開催地について

資料8 2023-2024年度委員候補者リスト

資料9-1 から 3 日本天文学会研究奨励賞内規、日本天文学会林忠四郎賞内規、日本天文学会早川幸男基金内規

資料10 事務長／パート職員の雇用期間について

資料11 年会実行委員会活動報告

資料12 TENNET 検討状況報告

資料 13 天文教育委員会より、前回理事会（2021 年 9 月 13 日）以降の活動報告（2022 年 12 月 16 日現在）

資料 14 天文月報編集委員会からの報告

2022 年 12 月 24 日

会 長：山本 智 印

副会長：太田 耕司 印

副会長：久保田 あや 印

監 事：奥村 幸子 印

監 事：花岡 庸一郎 印